

『全育連 啓発キャラバン隊研修会』が ハイブリッド開催されました

副理事長 中島 由紀子

9 月 26 日北海道札幌市で行われた「啓発キャラバン隊研修会」にオンラインで参加しました。全育連佐々木桃子会長のご挨拶の後、権利擁護委員の関哉直人弁護士による基調講演「障害者権利条約と啓発キャラバン隊活動」が行われ、令和 4 年に条約締結国である日本政府に対して出された国連所見の重要な部分をわかりやすく説明されました。

【啓発キャラバン隊研修会／オンラインにて開催】

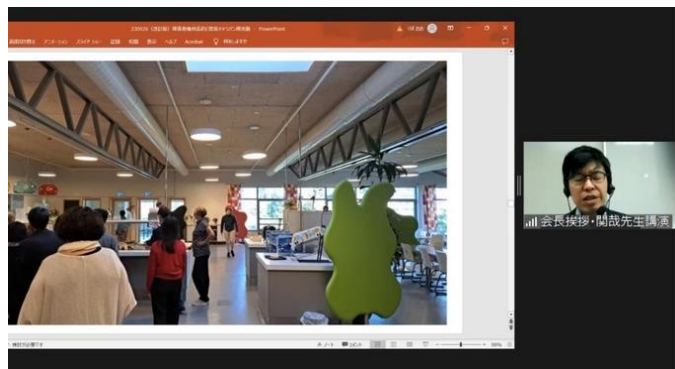


教育に関しては永続している障がいのある児童への分離特別教育を終わらせ、障がい者を包容する教育＝インクルーシブ教育を受ける権利があることを認識すること・通常学校の教員の意識を向上させることが不十分な点として指摘されていて、改善を要請されています。

関哉弁護士は今年スウェーデン・ノルウェーの教育現場を視察され、両国ではインクルーシブ教育が原則で、例外として審査を受けた上で特別教育学校に進む権利を獲得するという発想に、支援学校の児童生徒数が増えている日本との違いを感じたそうです。インクルーシブの『分けない』理念を推進するには、地域社会での交流や場の統合を進めていく必要があり、啓発キャラバン隊が地域に伝えて理解者を増やしていくことを願うと話されました。

次に札幌市『Team i』が会場では実演で、オンライン参加者にはビデオで活動を紹介され、障がいについての説明が簡潔にまとめられている台本は参考になりました。午後からのシンポジウムでは「立ち上げたけれどなかなか活動が出来ない、立ち上げて間もないところはみんなどうしているの？」をテーマに、北海道内の 3 つの啓発隊と佐々木会長が登壇され、現状報告と課題を発表されました。

【基調講演「障害者権利条約と啓発キャラバン隊活動」 ／権利擁護委員 関哉 直人弁護士】



最後に参加者をグループ分けしてディスカッションが行われ、当会の長谷川理事長が大阪市育成会の啓発隊『YO～おこし』の活動紹介や質問に答えられました。キャラバン隊を立ち上げた矢先のコロナ蔓延で休眠状態の団体も多く、「どこに働きかけて活動の機会を得るか」「学校に入るのはハードルが高い」「メンバー獲得のヒントは」等、悩みの相談は尽きませんでした。

『YO～おこし』は 11 月に北区の小学校に出向き、学年ごとに疑似体験を通して障がいのある人の気持ちを感じてもらえるよう講演を行います。共に生きる社会を目指して一緒に啓発活動をしていただける方を大募集していますのでよろしくお願いいたします。



「仲間づくりの教室」のスポーツ大会が開催されました

10 月 1 日（日）に「仲間づくりの教室」のスポーツ大会が、府立住之江支援学校にて開催されました。新型コロナウイルスの影響で、昨年まで 3 回も中止になってしまいましたが、コロナが 5 類に移行した今年度は、4 年ぶりにスポーツイベントを開催することができました。

【「仲間づくりの教室」スポーツ大会 開会式】

